

令和4年 7月 15日 (金)

未来への扉

高等特別支援学校 支援部 第154号



どんなかんじかなあ (絵本の紹介)

支援部 N

ともだちのまりちゃんは めがみえない。
それで かんがえたんだ。
みえないって どんなかんじかなあって。

しばらく めを つぶっていたら わかるかもね。
うん、めを つぶっていてみよう。

なんてたくさん いろいろな おと!!

ぼくは おどろいて めをあけた。
まえと おなじ しんとした よのなかだった。

だから まりちゃんにあったとき いったんだ。
「みえないって すごいんだね。
あんなにたくさん きこえるんだものね。
みえるって そんだね。
ちょっとしか きこえてないんだものね」
まりちゃんは わらって、こういった。
「ひろくんって、かわってる」

一部抜粋 引用 絵本「どんなかんじかなあ」

この絵本は、目の見えない人、耳の聞こえない人などがどんな感じなんだろうと主人公のひろくんは考えます。実際に目をつぶってみたり、耳栓をしたりして模擬体験をします。そして体験したことを友達に伝えます。

見えないからこそ聞こえる世界や聞こえないから見える世界にひろくんは驚き、感動します。

ひろくんの模擬体験を友達も真似をします。ひろくんの周りの人たちがそれぞれの立場になって考え、日常を想像することで友達のすごいところに気づきます。

この絵本の筆者は中山千夏さんです。多数の絵本を出版されている方で、「どんなかんじかなあ」は2006年第11回 日本絵本賞を受賞した作品です。

また中山さんは絵本作家だけではなく、「じゃりん子チエ」や「ひよっこりひょうたん島」の声優、歌手活動など幅広く活動されています。高特生のみなさんは、「じゃりん子チエ」って何?と聞いたことのないタイトルだと思いますが、昭和生まれの私にとっては懐かしい人情アニメです。

この絵本のあとがきに中山さんはこう記しています。

にこにこ、すてきな女の子に会った。やりたい勉強があって、大学をめざしてはりきっていた。電動の車いすに乗っていた。

体のなかで、自分で動かすことができるのは、指先と目や口だけだった。日に日にだんだん体が動かなくなる病気。聞いたこともない難しい名前前の病気。日本で3人くらいしか例がなく、治療法は今のところない。

にこにこ、すてきな女の子だった。彼女と会って話して、いろいろなことを考えた。障害のある友達のこと。ないともだちのこと。自分自身のこと。みんなそれぞれ何かしらどうにもならない辛さを背負っているということ。

でも生きられる。
いっしょになら生きられるということ……。
彼女は私にいろいろなことを考えさせてくれた。
一部抜粋 引用 絵本「どんなかんじかなあ」

この夏休み、ゆったりと過ごすことができるときに絵本、小説を読むことや普段できない体験をする中で、身近な人のことや自分のことをじっくりと見つめる時間をつくってみてはいかがでしょうか。



『どんなかんじかなあ』
中山千夏・文
和田 誠・絵

自由国民社 (発行所)

うちの先生♪

(1-3担任) K

(生徒指導部) A

<進行・記録: 支援部 H>

※お二人のトークの一部分を紹介します。

◆本校の生徒の印象はどうか?

K) 始めて高特に来た時、学校に入ろうとしたら、ちょうど下校の時間だったのか、生徒が『こんにちは』って挨拶してくれて、すごいと思いました。挨拶がとても元気で、知らない人にもしっかり挨拶できるような子たちがいる学校なんだなと思ったことを覚えています。ここに来てからも、その時と変わらず、元気でみんな前向きで、素直で、しんどい時、くじけそうな時もあるだろうけど、自分の将来のために頑張っているんだなって印象があります。

A) 何事にも頑張っているなって。すごく、頑張っていると思います。

<頑張っているしか言っていないやん(笑)。いやでも僕も同感で頑張っているなって思う。>

<高特の3年間で、この子たち伸ばしていけるかどうかは、先生達の腕の見せどころ。良いところをたくさん見つけて、伸ばしてあげて、さらに育ててあげてください。>

◆高特生に一言

K) きっと、しんどい事の方が多い3年間だけど、必ず楽しいこともある。花咲くその日を楽しみにがんばって!!

A) 高特生活が充実したものとなりますように!!

以上で、新任のお2人の紹介を終わります。

・今後も『うちの先生♪』で本校職員を紹介していきます。

・他の記事もたくさん紹介していきますので、ぜひ今後ともご覧ください。